

**7月前半は雨予報、後半は平年並に晴れが多い見込みです！
コシヒカリの穂肥は生育診断に基づき適切に施用！**

— 重点事項 —

- ◎ 幼穂形成期以降は、田面の固さを維持しながら飽水管理を実施する。
- ◎ 穂肥は、生育診断結果と気象推移を考慮して、適期・適量を施用する。
- ◎ カメムシによる斑点米発生防止のため、農道・畦畔の草刈りと薬剤防除を徹底する。

1 7月8日現在の生育状況【普及センター調査ほ】

【コシヒカリ】※平均は6地点の水稲作付面積に応じた加重平均

調査地点	施肥体系	草丈 (cm, %)			茎数 (本/m ² , %)			葉数 (葉)			葉色 (SPAD)		
		本年	指標比	前年比	本年	指標比	前年比	本年	指標差	前年差	本年	指標差	前年差
山北/大毎	一発	59	98	98	541	115	105	11.0	+0.7	+0.6	36.2	+1.2	+1.7
朝日/川端	一発	66	103	105	592	123	101	11.7	+0.6	+0.7	36.8	+1.8	+0.3
村上/鑄物師	一発	61	99	105	612	133	117	11.6	+0.8	+1.3	40.1	+5.1	+0.6
神林/牛屋	分施	57	95	93	376	90	105	10.6	+0.1	-1.2	32.3	-1.7	-1.2
荒川/名割	分施	67	118	104	569	126	132	11.1	+0.7	+0.7	41.4	+4.4	-1.2
関川/下関	分施	56	95	113	597	124	83	10.4	-0.2	-0.1	38.7	+2.2	+0.8
平均		61	101	103	538	117	104	11.1	+0.4	+0.2	37.2	+1.8	-0.1

○草丈:指標値並、茎数:やや多、葉数:やや早、葉色:やや濃

7月初旬の高夜温で草丈が急伸長したほ場も見られる。茎数は指標値よりやや多、葉色は指標値よりもやや濃くほ場間差あり。

2 7月8日現在の出穂期予想 ~早生・中生ともに平年より2日早い見込み~

品種名	出穂期* (予想)	穂肥時期(出穂前日数)				合計施肥量 (チツソ kg/10a)
		1回目		2回目		
五百万石	7月23日	7/3	(20)	7/11	(12)	1~2
こしいぶき	7月27日	7/4	(23)	7/13	(14)	2~3
こがねもち	7月31日	7/13~7/16	(18~15)	7/21	(10)	1~3
コシヒカリ	8月6日	7/19~7/22	(18~15)	7/27	(10)	1~3

*コシヒカリは5月10日、その他の品種は5月5日田植えでの予想日

※出穂期は気象条件で大きく変動するので、今後の情報に注意してください。

(穂肥は、必ずほ場の幼穂長を確認して施用しましょう)

3 中干し終了後の水管理 ~根への酸素補給を忘れずに!~

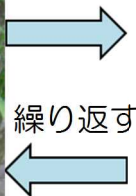
○コシヒカリは出穂の1か月前を過ぎていたため、中干しを終了して浅水の間断かん水から飽水管理(水がなくなったらかん水を繰り返す方法)に移行し、うわ根の発生促進や根の健全化及び地耐力の維持に努めましょう。

○幼穂形成期以降は、ほ場を乾かさないうち注意しながら、飽水管理を行いましょう。

○急激な湛水や長期間の湛水は根を傷め、下葉枯れにつながるため避けましょう。

※高温が続く場合は、水を更新して地温低下と酸素補給を図りましょう。





繰り返す



田面がかくれる程度
にかん水

溝や足跡に水が
あるうちにかん水

こんなに乾かさ
ないでね!

4 穂肥は「生育診断」に基づいて的確に！～倒伏&籾数過剰に注意～

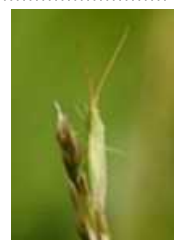
現在のコシヒカリは、草丈が並、葉色がやや濃く、一部ほ場では草丈が急伸長しており倒伏に注意が必要です。そのため、1回目穂肥は慎重な判断が必要なので、必ず生育診断を実施の上、施用しましょう。

生育診断によるコシヒカリ穂肥施用のめやす

回	時期・幼穂長・外観	診断ポイント	簡易葉色板	穂肥施用例
1 回 目	<p>【出穂 18 日前】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼穂長: 0.5~1 cm ・止葉が抽出開始 	<ul style="list-style-type: none"> ●草丈: 75 cm以下 ●茎数: 420 本/㎡以下 50 株植え: 28 本/株以下 60 株植え: 23 本/株以下 ●葉色 (SPAD): 32 以下 葉色板単葉は 4 ●上位葉が立っていて、 ほ場全体の葉色が均一 にさめている 	<p>「淡」に近い (栄養不足) ⇒増量施用①</p> <p>「適」に近い (栄養適切) ⇒適量施用②</p> <p>「濃」に近い (栄養過剰) ⇒遅め控えめ③</p>	<p>【窒素成分量】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①増量施用 1.2~1.5kg/10a ②適量(通常) 1.0~1.2kg/10a ③控えめ(減量) 0.8kg/10a 以下
2 回 目	<p>【出穂 10 日前】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼穂長: 8 cm以上 ・止葉と次葉の 葉耳間長±0 cm 	<ul style="list-style-type: none"> ●草丈: 90 cm以下 ●下位節間長: (第 5+第 4) 15 cm以下 ●葉色 (SPAD): 32 以下 葉色板単葉は 4 	<p>「淡」に近い ⇒増量施用①</p> <p>「適」に近い ⇒適量施用②</p> <p>「濃」に近い ⇒減量施用③</p>	

5 カメムシの増殖源を無くしましょう

- 6 月後半、7 月前半の市町村予察調査では、カスミカメムシ類の確認地点率・虫数は平年より増加しています。近年カメムシによる斑点米被害で格落ちが目立っているため、草刈りと適期防除で斑点米被害ゼロを目指しましょう。
- 下記の重点推進期間を中心に畦畔・農道の草刈りを徹底し、カメムシの増殖源(穂や実を付けた雑草)を無くしましょう。
- アカスジカスミカメは本田内の雑草でも増殖します。ヒエ、ホタルイ等が目立つほ場はできるだけ抜き取りましょう。
- 個人防除の場合は、出穂後の薬剤散布を確実に実施しましょう。



アカヒゲホソ
ミドリカスミカメ

草刈り重点推進期間(第2回)は7月9日(金)から7月18日(日)まで

6 葉いもちは発生を見つけ次第防除しましょう

- 7 月前半は曇りや雨が多く、後半は晴れが多い予報です。そのため、いもち病に弱い品種では、葉いもちの発生に注意が必要です。
- 葉いもちは6月30日に長岡市で県内初確認され、その後各地で確認されています。
- ほ場の見回りをこまめに行い、コシヒカリ BL 以外の品種で病斑を確認した場合は、直ちに粉・液剤で防除してください。